



湯田温泉こんこんパークの温泉熱活用について

山口市交流創造部湯田温泉パーク整備推進室 田中 新治

1. 山口市の概要について

- ◆ 山口県の中央部に位置
- ◆ 瀬戸内海から島根県の県境まで約1,023km²
- ◆ 人口 187,408人(R8.2.1現在の推計人口)
- ◆ 県庁所在地で、中心部には行政、文化、教育、商業、観光等の都市機能が集積し、周辺は農山村地域が広がる
- ◆ サービス業などの第3次産業の就業者数の割合が高い



2. 湯田温泉について



湯田温泉は1日に2000トンもの天然温泉が湧出し、「美肌の湯」として親しまれており、湯田温泉街には、多くの旅館や飲食店が立ち並ぶとともに、無料の足湯スポットも設置しています。



湯田温泉は、800年前に白狐が浸ってケガを癒していたことから発見されたという「白狐伝説」があり、その伝説にちなみ、湯田温泉街のあちこちには、いろいろなキツネの姿がみられます。

概要

湯田温泉は、約810年前(西暦1200年)から存在していた歴史のある温泉地です。

「天与の恵みを大切にしよう」という気持ちから、全国の温泉地に先駆けて、各泉源から温泉を貯湯槽に集め、旅館・ホテル等に配湯するシステムを1984年に構築いたしました。現在、泉源は七ヶ所あり、本システムを用いて旅館・ホテル等の風呂に常時、必要量を供給しています。言い換えれば七ヶ所の泉源が各旅館・ホテル等の風呂に直結しているということなのです。

無色透明、アルカリ性のつるつとしたきれいなお湯は、別名「美肌の湯」ともいわれ、お年寄りから赤ちゃんまで安心してご利用いただけます。

また、県下唯一の高温泉は、幕末の志士たちを奮い立たせ、維新の偉業を成し遂げる原動力ともなりました。

効能

神経痛・筋肉痛・関節痛・五十肩・運動麻痺・関節のこわばり・うちみ・くじせ・慢性消化器病・び瘡・冷え性・病後回復期・疲労回復・健康増進

泉質

アルカリ性単純温泉(低張性アルカリ性高温泉/PH9.14)

泉源

●	泉源名	ℓ/分	t/日	温度℃	深さ/m
1	市有特1号	125	180	72	315
2	湯田温泉12号	62.5	90	69	150
3	○ 18号	350	504	72	500
4	○ 19号	270	389	61	500
5	○ 21号	260	374	66	141
6	○ 22号	310	446	73	488
7	近藤1号	100	144	49	150
	計	1,477.5	2,127		

白狐が見つけた
湯田温泉
泉源・集配湯図



至山口大学

3. 湯田温泉こんこんパークについて

所在地 山口市湯田温泉五丁目
敷地面積 7,015.27㎡
延床面積 4,076.73㎡
構造 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造
階数 地上2階
駐車台数 52台

令和7年6月オープン









ウォーターパーク



パブリックビューイング

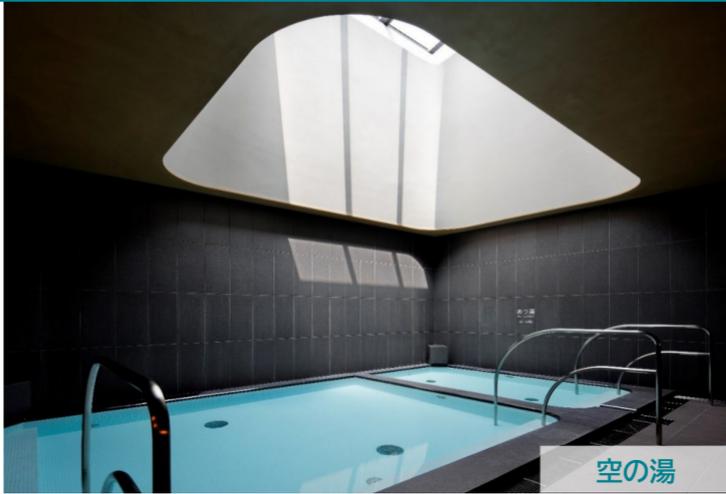


ヨガイベント



地元自治会による祭り





空の湯



森の湯



貸切風呂 壱



貸切風呂 弐



お絵描きエリア



アソビバエリア



くつろぎエリア



ハーブガーデン

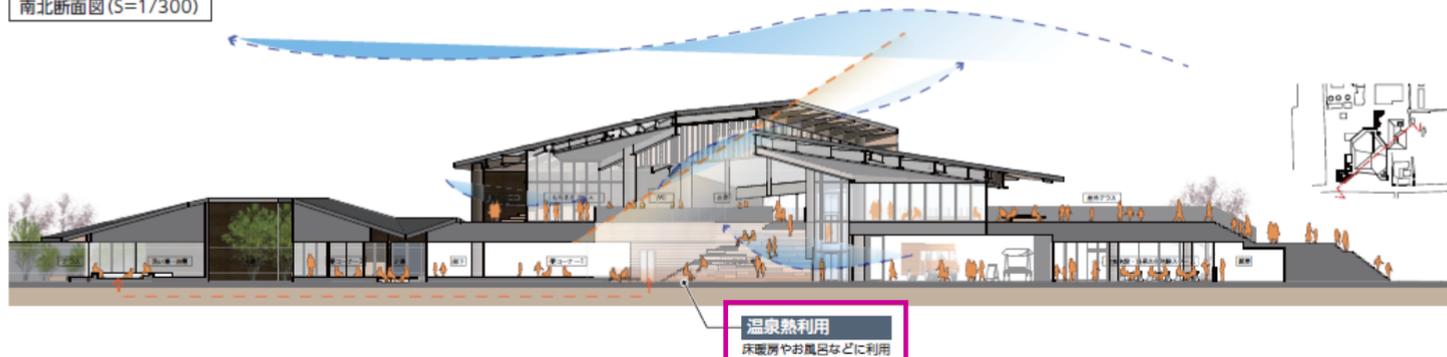
4. 温泉熱の活用について

① 環境に配慮した取組

東西断面図 (S=1/300)

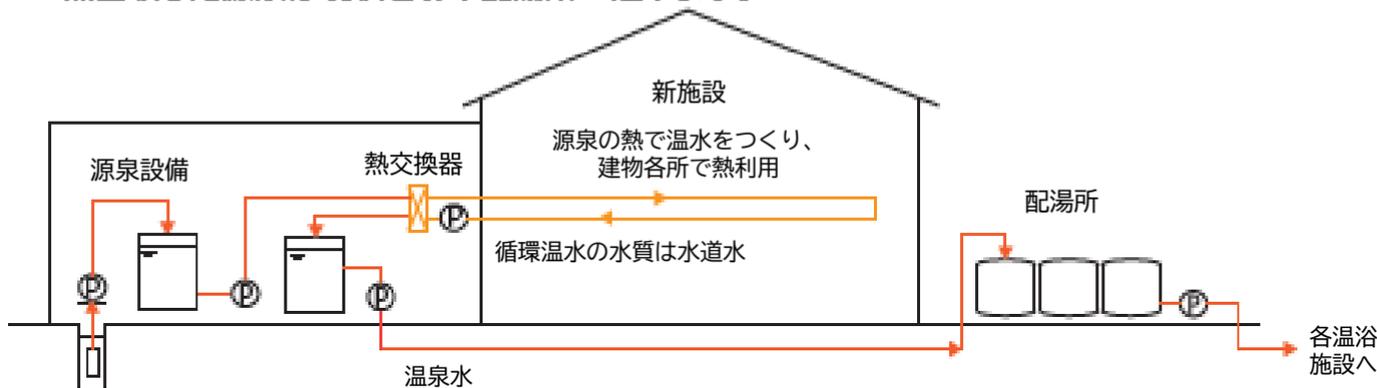


南北断面図 (S=1/300)

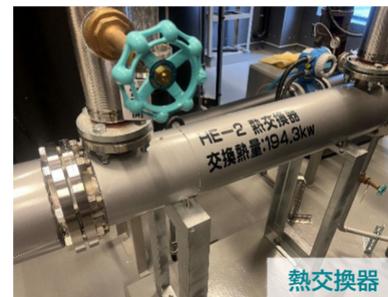


② 温泉熱の活用方法

源泉設備を一部改修し、源泉(68℃~74℃)の熱から温水をつくり、施設各所で熱利用(湯沸かし、暖房等)を行います。熱回収した源泉は現状どおり配湯所へ送ります。



熱利用項目	床暖房(大屋根広場)	浴槽昇温	床暖房(屋内)
設備イメージ			
概要	大屋根広場の床面を暖めて、冬期イベント時の快適性を高める。	ろ過循環の過程で熱供給し、浴槽(温泉)を昇温・温度維持する。	夜間の源泉熱を活用、コンクリートの蓄熱性により床面・座面等を暖める。



市有特1号

- 床暖房設置箇所
- 昇温箇所

湯田温泉21号



床暖ヘッダー



床暖ヘッダー



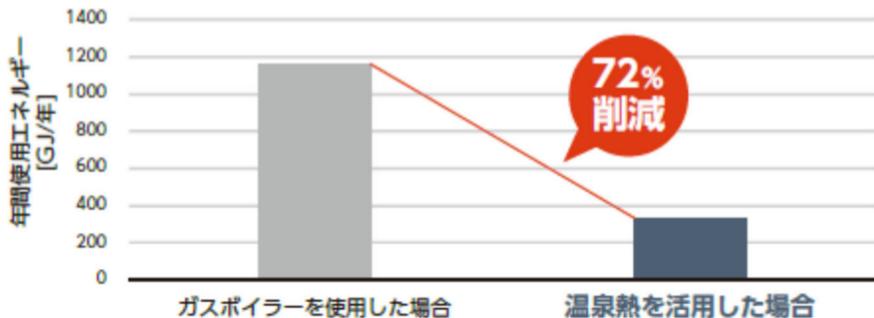
湯田温泉18号



③ 温泉熱の導入メリット

温泉熱利用による温浴設備、空調設備の年間使用エネルギー量削減イメージ

※基本設計作成時点



夏と冬における平均利用料金比較

